

ふうせんバレーボールの原点である「ラリーを楽しみ、誰でも一緒に参加できる」と、「声をかけあい、ハンデのある選手を中心にした」ルールになるよう、心がけて改訂しました。

- ★ HP(ハンデ・プレーヤー)、プレーに支障のある選手、障がい者・幼児・高齢者(65才~)
- ★ AP(アドバンテージ・プレーヤー)、障がいの有無に関係なく、プレーに支障のない選手

パラレル・ルールの特長は、選手一人一人が自主的にルールを守ること、とします。

※反則の対象としては、以下ルールに記載の内容に限ります

コート=バドミントンWコート(6.1m×13.4m)、ネット高さ(1.55m)、サービスライン(1.98m)

チーム =HP3~5名とAP1~3名の6名で構成されます

ハンデ・レベル=ハンデ(HC)の合計は、1チーム18点以内を原則とします

ハンデ①の選手のいないチームは、ハンデ④の選手は2名までを原則とします

- HC ①—自力でボールを追えず、ボールコントロールの出来にくい選手(車いす、補助)
- HC ②—ボールを追うことと打つことに、部分的なサポート(車いす、自走)の必要な選手
- HC ③—ほとんどのプレーはでき、少しのハンデのある選手(~小3位・65才~、含む)
- HC ④—プレーに支障のない選手(障がい者でもプレーに支障がなければ含む)

ルール =ボールが自コートに入って、6人全員が打ち、10回以内に相手コートに返す

10回以内に1人2回まで打つことができますが、一人が連続して打ったときは反則

進行 =ボールは片手で打ち、もう片手は他選手のサポート・自守に使うように心がけてください
ゼッケンは、HPが①・③・⑤、APが②・④・⑥を原則

サーブ =チーム交互にします(得失点に関係なく)2回制(HP・AP~交互順)

サービスラインから、両足をついたまま(強すぎるとラリーが続かないため)打ちます
サーブを打った後に、サービスラインを踏んでも越えても反則、HPは考慮があります

◎車いす部門は、立位選手のオーバーハンド(肩の上で打つ)サーブはできません

HPは任意の場所(打ちこみ出来るHPはサービスライン)からのサーブを打ちます
HPはトスのアシストと、サーブ後の1打のアシストを受けることができます

アタック =アタッカーは、①・③・⑤のHP選手のみ(車いす部門は、車いす使用者のみ)

アタックを打った後は、サービス(アタック)ラインを踏んでも越えてもセーフ

- ◎ サーブやアタックを受ける1回目のレシーブは、体の2か所以上に接触してもセーフ
- ◎ ボールのイン・アウトは、着地点で決めます。

反則 =ナットオール → チームの全員が打つ前に相手コートに返球したとき

オーバータイム → 10回以内に相手コートに返球できないとき

同じ選手が3回ボールに触れたとき

ドリブル → 明らかに、同じ選手が続けて2回ボールを打ったとき

ホールディング → 明らかに、ボールを持ったり、運んだりしたとき

ジャンプ → ジャンプしてサーブ、アタックをしたとき

タッチネット → ボールを打つ前から打った後までに、ネットに触れたとき

オーバーライン → サーブとアタックの前後に、サービスラインを踏んだり、越えたとき

※HP①、②のドリブル、ホールディング、オーバーラインは考慮します

勝敗 =10分間 または15点先取、得点はラリーポイント制(※HP①・②に配慮のため) 以上